

Q¹⁰

ポビドンヨードの使用で、乾燥させるために風を当てて乾かしています。この方法はよいですか？

A

ポビドンヨードは、生体用消毒薬で手指消毒や皮膚消毒に使用されます。しかし、その使用で「乾燥する瞬間に消毒効果があるので、早く乾燥するように液は少な目に」とか、「風を当てて早く乾燥させる」など、まことしやかに先輩から後輩へと伝授されているところがあると聞きます。これは大きな間違いです。

消毒には、作用時間が重要であることが分かっていないと思われます。以前ある病院では、「ポビドンヨード・ハイポアルコールの処理」というのがあり、ポビドンヨードで処理したあと、乾かない時点でハイポアルコールで処理するという方法です。皮膚に着色したポビドンヨードの色を消すという方法です。これも間違いです。消毒薬で処理し、乾くまでの時間、これが作用時間です。すなわち乾かすということは、作用時間をとることを意味します。

また、ポビドンヨードは有機物が存在すると失活し、抗菌活性がなくなります。そのため、十分な液で処理をし、乾くまで時間をとることが必要ですし、接触皮膚炎を防止する意味からも塗布後乾燥させることです。

文献

- 1) 辻 明良：感染制御のための消毒の手びき。ヴァンメディカル，東京，2004
- 2) ICHG研究会編：滅菌・消毒・洗浄ハンドブック。メディカルチャー，東京，1999
- 3) 辻 明良ほか，編集：院内感染対策へのサポート。南山堂，東京，2003

(辻 明良)